

第 4 回 東京2025デフリンピック開閉会式検討部会演出委員会  
議事概要

1 開催日時

令和 7 年 3 月 5 日（水曜日）10 時 00 分から 12 時 00 分まで

2 場所

都庁第二庁舎 10 階 207 会議室

3 出席者

（1）演出委員会委員

近藤 良平（演出委員会リーダー）

大橋 弘枝

濱野 正子（東京都）

倉野 直紀（全日本ろうあ連盟）

鈴木 倫之（東京都スポーツ文化事業団）

（2）招待者

早瀬 久美（デフアスリート）

矢ヶ部 紋可（デフアスリート）

4 議題

（1）デフアスリートヒアリング

5 議事要旨

ヒアリング内容は別紙のとおり

上記のヒアリング内容を踏まえて、次回の演出委員会にて演出について議論することとした。

<別紙>

**Q1 過去大会や他イベントなどで印象に残っていることは何ですか？**

- ・今まで国際スポーツ大会の式典（開会式，閉会式等）に参加して一番印象に残っているのは、「アスリートファースト」と「アスリートへのリスペクト」が最初から最後まで一貫していることや、開催地の歴史と文化をベースにその開催地ならではの表現方法により式典全体で表現されていること。
- ・一つ一つの点が明確でありそれらが調和して大きな面となりアスリートの活躍によって立体化され、アスリートだけではなく観客の立場でも深い感動と大きな期待に包み込まれていた。
- ・聴覚障害者向けのライブイベントに参加した時、パントマイムや体全身を使ったダンスが印象に残った。海外の大会に出場した時は太鼓を使った演奏があり、振動が体に響いてきたのでそれも印象に残っている。

**Q2 過去大会や他イベントなどで経験した、きこえない人が受け取って嬉しいと感じた出来事・コンテンツを教えてください。**

- ・綿密に計算された視覚情報による演出。音声情報を視覚化するバリアフリーの先にある視覚情報そのものから生まれた演出はろう者にとって最も心地よく、きこえる人にとっても新たな発見があると思う。

例：映像と演者の手話や身体表現による演出、さらに照明による演出も行われ、全て視覚から生まれた表現であること。

ろう者の視点と聴者の視点が融合された視覚だけで生み出される新たな価値の創造の世界

- ・小学校の子供たちから手話で歌を歌ってくれたこと、普段感じるできない身の回りの音や声を文字化して表現してくれた時(オノマトペ)に嬉しいと感じます。

**Q3 普段、どんなことをして楽しんでますか？**

- ・専門競技以外のスポーツ，映画を観て楽しんでいる。
- ・友達と手話で話すこと、スポーツを通してコミュニケーションをとることを楽しんでいる。

**Q4 きこえない人の中で親しんでいること・流行しているものを教えてください。**

- ・ろう者の視点から生み出す映像，身体表現，写真，作品，などのアートの創作が楽しい。
- ・表情で何を言っているのかを当てるゲーム。最近のマイブームです。